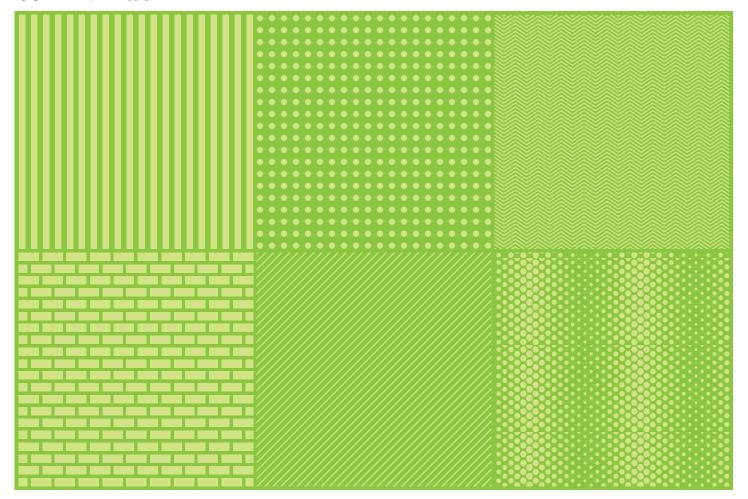


# 株主通信 第11期 2009年9月1日から2010年8月31日まで



#### 株主の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご支援ならびにご厚情を賜り、心より 御礼申し上げます。

当社は「新しい価値を創造し、心のこもったサービスを通じて、社会に 貢献する企業を目指す」という経営理念のもと、地盤の調査を行い、強 度に問題がある地盤を補強し、適切な方法で地盤に保証を付けることに より、皆様に安心を提供してまいりました。

当業界におきましては、2009年6月に「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」、同10月に「住宅瑕疵担保履行法」の施行、同12月に、国土交通省、経済産業省、環境省の三省合同事業として、『住宅エコポイント制度』が開始されるなど、市場を取り巻く環境が劇的に変化しております。

しかしながら、この環境の変化は消費者保護や良質な住宅、環境に配慮した住宅の普及を目的としており、これまでのスクラップアンドビルドのフローから、ストックの時代へと変化しつつあります。

その様な観点からも、建物にとって非常に重要な要素である地盤調 ・ 補神のニーズは今後もさらに高まってくるものと確信しております。

また、我々は時代の変化に対し、柔軟に対応した商品開発を進め、地 盤改良事業においては新たに3工法の建築技術性能証明及び、技術審 査証明を取得しております。保証事業においては、業界初の住宅価格に 対応した地盤保証「THE LAND」のラインナップを増やし、地盤保証と 地震補償をセットにした「THE LAND Plus」や、信託を活用し、出来高 払いにすることでビルダーに万が一の事態が発生した場合でも住宅の 完成までを支援する住宅完成エスクローサービス「住まいるガード」の 販売も徐々に実績を伸ばしてきております。

今後は、変貌する住宅業界の中で消費者の目線に立った付加価値の 高い商品を積極的に開発・展開し事業成長・企業価値の向上に努めてい く所存でございます。

最後に、株主の皆様のご支援により、当期は配当を再開することができましたことを感謝申し上げると共に、今

後とも引き続き皆様のご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

サムシングホールディングス株式会社 代表取締役社長





#### プロフィール ―



グループのシナジーを原動力に、 新たな成長段階へ。

> サムシング・グループは、 住宅価値創造事業グループを目指します

サムシング・グループは住宅地盤事業を中心に事業を展開し、 ソリューションビジネス、ニュービジネスを展開することにより、 新しい価値の創造・住宅価値創造事業グループを目指します。

### 🯲 サムシング・グループの基本方針

サムシング・グループは設立以来、「マーケットイン」・「ニッチ」・「グロース」という3つのキーワードを念頭に置いて、経営戦略を立案しています。

企業側の論理で「良いモノ・サービス」を提供するプロダクトアウトの考え方ではなく、「顧客の望むモノ・サービス」を提供する「マーケットイン」の視点でお客様と取り引きしています。そして、市場(=お客様)ありきの考えで、店舗展開、商品開発を行っています。

市場の選択にあたっては、「ニッチ」という要素を重視しています。それはサムシング・グループが、大手企業と同じ土俵に立って競争をするには、現状の体力では不十分であるという現実を認識しているからです。そこで、大手企業とのむやみな競争を避け、収益の確保を見込める市場に経営資源を集中していきます。

市場の選択条件としては、成熟市場ではなく、規模は必ずしも大きくなくとも新興の成長市場を志向しています。

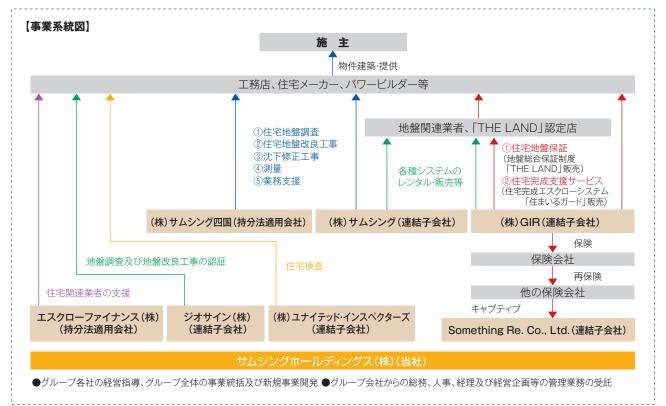
### - 事業系統及びセグメント

当社は、グループ各社の経営指導、グループ全体の事業統括及び新規事業開発等を行っております。また、グループ各社から、総務、人事、経理及び経営企画等の管理業務も受託しております。

事業の種類別セグメントは、次のとおりであります。

事業の種類別 セグメント	主な事業の内容	主な会社名		
地盤改良事業	●住宅地盤調査 ●住宅地盤改良工事 ●沈下修正工事 ●擁壁工事 ●測量 ●地盤関連業者に対する 業務支援	●(株)サムシング ●(株)GIR ●(株)サムシング四国(**)		
保証事業	●住宅地盤保証 ●住宅完成支援サービス	●(株)GIR ●Something Re. Co., Ltd.		
その他の事業	●各種システムのレンタル・ 販売等 ●住宅検査関連業務 ●電子認証サービス ●住宅関連業者支援	●(株) GIR ●ジオサイン(株) ●(株) ユナイテッド・インスペクターズ ●エスクローファイナンス(株)(**)		

(※)(株)サムシング四国、エスクローファイナンス(株)は持分法適用会社であります。



## 創業より培った技術・ノウハウを活かし、グループシナジーを極大化。 次の成長ステージへ飛躍していきます。

#### グループフォーメーション

サムシングホールディングス株式会社は2000年、住宅地盤調査・改良事業から住宅地盤保証事業への進出を機に設立された 純粋持株会社です。

創業精神は「全社員が夢を持って仕事に邁進する会社・組織の 形成」。グループのシナジーを無限大に高め、進化を加速させて いく役割を担っています。 グループ各社の総務・人事・経理や経営企画等の管理業務受託をはじめ、グループ各社の経営指導やグループ全体の事業統括及び新規事業開発などとして、いち早く顧客ニーズを先見し、成長が見込まれる新規市場を開拓。「顧客の望むモノ・サービス」を提供する「マーケットイン」の視点でビジネスを展開。地盤改良と保証を両軸に「住宅価値創造事業グループ」として、進化と発展を遂げていきます。



#### TOPICS

#### ■ 第11 期 ■ (2009年9月1日~2010年8月31日)

**2009年 9月** ·(株) サムシング東海から(株) サムシング西日本へ商号変更

・(株)サムシングから(株)サムシング西日本へ九州営業所を譲渡

・エスクローファイナンス(株) 共同設立

10月 ・(株)サムシング四国 共同設立

2010年 2月 ・(株)サムシングにおいて、共同開発新工法『エコジオ』の建築技術性能証明取得

3月 ・ジオサイン(株)の株式取得により、保有比率30%から45%へ増加

4月 · (株) サムシングにおいて、共同開発新工法「DM(ダブルメタル) 工法」の建築技術性能証明取得

・(株)サムシング 仙台支店開設

5月 ·(株)サムシングにおいて、共同開発新工法『PROP TYPE-S』の技術審査証明取得

#### ■ 第12 期 ■ (2010年9月1日~2010年12月31日)

2010年 11月 ・(株) サムシング西日本を(株) サムシングへ吸収合併

### サムシング・グループのサービス



#### ■ 株式会社サムシング

サムシング・グループの中核企業であり、住 宅及び小規模店舗を中心に地盤改良工事を 主たる事業とし、地盤調査、測量調査、不同 沈下が発生した家屋の沈下修正工事を行っ ています.

#### ■ 株式会社サムシング四国

四国地区において、株式会社サムシングと 同様の事業を行っています。

#### 現況測量·役所調査

地盤調査(スウェーデン式サウンディング試験)

### 電子認証システム



改良判定

GeoSign

#### ■ジオサイン株式会社

電子認証付地盤調査を実施するための 住宅地盤第三者認証システム「G-Web system」を提供しています。このシステ ムを導入することで、不正や改竄を防止 するタイムスタンプ付の地盤調査報告 書を発行することができます。

判定

#### 地盤改良工事

※ベタ基礎とは地盤の長期地耐力が20KN/㎡以上の土地に採用で きるコンクリート基礎の一種です。

#### 地盤調查

地盤の強度(N値と呼ば れる値)を調査し、現状 の地盤で建物の建設が 可能か否かを測定します。



#### 地盤改良

地盤調査の結果、 軟弱地盤と判定 された土地に対 し、建設する住 字の重みに耐え られるように、地 盤を補強します。





#### ■ 株式会社GIR

損害保険会社と提携し保証事業を行い、地 盤総合保証 「THE LAND」及び住宅の完成 までを支援する住宅完成エスクローサービス 「住まいるガード」を提供しています。

### 地盤総合保障「THE LAND」

住宅完成エスクローサービス 「住まいるガード」

#### \*Something Re. Co., Ltd.

マレーシア、ラブアン島で保証事業のキャプティブを行い、 「THE LAND」のビジネスモデルを支えています。

ハウスメーカー様や工務店様向 けに、建物引渡しから10年間保 証の地盤総合保証制度「THE LAND」を提供しています。



地盤総合保証制度 THE LAND! 地盤に起因する 建物の不具合 を保証

#### 住宅完成エスクローサービス 「住まいるガード」

建築工事の進捗管理を行い、出 来高に応じて住宅事業者に、予 め施主様より信託口座にてお預 かりした建築費をお支払いするこ とで、住宅取得者の過払いや二 重払いを未然に防止します。また、 住宅事業者に万が一の事態が発 生しても、工事を継承し住宅の完 成まで支援することが可能となり



#### ■ エスクローファイナンス株式会社

株式会社GIR社の「住まいるガード」を利用 される住宅事業者に対する短期資金の貸付 を行っています。

#### 住宅関連業者支援(事業資金の融資等)

#### 住宅関連業者支援

主に、サムシング・グループのサービスを利用される住宅事業者に対 する事業資金の融資、経営に関するコンサルティング業務、住宅建材 の売買を提供します。



#### United Inspectors

■ 株式会社ユナイテッド・インスペクターズ 住宅瑕疵担保責任保険の検査、住宅事業者 及び住宅取得者向け建物検査業務を行って います。



(住宅瑕疵担保履行法の現場検査等)

### 住宅検査

#### 住宅検查

2009年10月より義務化され た「住宅瑕疵担保責任保険」 の現場検査を主体に株式会社 GIRが提供する「住まいるガ ド | の出来高検査を行います。





#### 1. 当期の概況

当連結会計年度の業績は売上高5,515,866千円(前期比19.2%増)、売上総利益1,549,193千円(前期比15.4%増)、営業利益71,566千円(前期比20.8%増)となりましたが、持分法による投資損失の拡大に伴い営業外費用が増加し、経常利益は43,662千円(前期比8,6%増)となりました。

当期純利益につきましては、保証事業の業績が順調に 推移した結果、これに伴う法人税等の納税額が増加した ため、最終的に当期純損失3,597千円(前期10,342千円の 純損失)計上するに至りました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (1) 地盤改良事業

地盤改良事業は、主に地盤改良工事と地盤調査・測量に分かれます。地盤改良工事におきましては、関西地区の営業権取得による売上増に加え、首都圏での受注拡大により総じて売上高は順調に伸びました。工法別でみると、表層改良工事やSMD工法の売上高は減少したものの、独自開発工法であるNSV工法が寄与し、主力の柱状改良工法は順調に増加しました。またホームページによるマーケティングが奏功し、沈下修正工事も上昇に転じました。

地盤調査・測量におきましてはボーリング調査が減少 したものの、スウェーデン式サウンディング試験が大幅 に増加したため、売上高は堅調な伸びを示しました。

この結果、地盤改良事業の売上高は5,248,872千円(前 期比17.5%増)となりました。

#### (2) 保証事業

保証価格帯のバリエーションを広げ、地盤総合保証「THE LAND」の販売数量は増加したものの、スキーム変更に伴う単価の低下とセグメント間の内部相殺処理により保証事業の売上高は低下しました。また、新規に開始した住宅完成エスクローシステム「住まいるガード」の販売も不振に終わりました。

この結果、保証事業の売上高は111,600千円(前期比 14.5%減)となりました。

#### (3) その他の事業

平成21年10月の住宅瑕疵担保履行法の施行に伴い、連結子会社ユナイテッド・インスペクターズの住宅検査受託業務が本格的に稼働したことと、住宅地盤の電子認証事業を営むジオサイン株式会社を期中から当社グループにおける重要性が増したことから、持分法適用関連会社から連結子会社に変更したことにより、売上高が上積みされました。この結果、その他の事業の売上高は155,393千円(前期比466.9%増)となりました。

#### 2. 次期の見通し

国内景気は着実に回復の兆しを見せておりますが、構造的なデフレ状態が続き、円高ドル安圧力から生じる輸出の失速から景気腰折れ懸念が払拭できない状況にあります。低金利の持続と景気対策の下支え効果で新設住宅着工件数はしばらく安定的に推移すると予想しております。しかしながら、住宅価格の低下傾向に関しては明確な底打ち感に乏しく、住宅用地盤改良事業における価格競争が落ち着きを取り戻すには時間がかかると考えております。

① 地盤改良事業におきましては、同業他社との差別化 を明確に打ち出すために当社グループの技術力と自社 システムを活用した顧客対応力を訴求した事業展開を 実施します。

独自開発工法であるNSV工法や他社との共同開発によるPROP工法を用いて、ハウスメーカーや非住宅建築物の小型商業用店舗や介護施設等の低層建物の高付加価値市場への営業活動に重点を置きます。また、社内システムを基盤とした組織力をマーケティングに活かし、全国展開をしている顧客への一層の浸透を図ります。一方で、根強い低価格ニーズに対応すべく、ローコストオペレーションの検討も本格的に着手いたします。

- ② 保証事業におきましては、地盤改良事業とのシナジー効果、特に住宅用地盤改良事業に対する高付加価値化を目的として新しい販売チャネルの構築や他社とのアライアンスも視野に入れた柔軟な販売戦略を推し進めていきます。既に全国的に普及している認定店ネットワークに関しては、従来通り拡大を続けていく方針です。
- ③ その他の事業におきましては、住宅検査受託業務と 電子認証事業を引き続き強化してまいります。また、新 設住宅着工のフロー依存型のビジネスモデルから、既存 住宅を対象に収益確保を可能とするストック依存型のビ ジネスモデルへの分散を実験的に試みていく考えです。

なお、次期の事業年度につきまして当社は、平成22年8月30日開催の臨時取締役会において、平成22年11月下旬開催予定の第11回定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されることを条件として、決算期(事業年度の末日)の変更を行うことを決議しており、決算期変更の経過期間となる次期(第12期)は、平成22年9月1日から平成22年12月31日までの4か月決算となる予定であります。

よって次期の連結業績見通しにつきましては、4か月決算を前提とし、売上高2,003百万円、営業利益35百万円、経常利益24百万円、当期純利益5百万円を見込んでおります。



## 連結財務諸表

#### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	<b>当期</b> (2010年8月31日現在)	<b>前 期</b> (2009年8月31日現在)	
【資産の部】			
流動資産	2,140,409	1,948,016	
固定資産	600,195	462,980	
有形固定資産	324,458	254,531	
無形固定資産	70,747	54,174	
投資その他の資産	204,990	154,274	
資産合計	2,740,605	2,410,996	
【負債の部】			
流動負債	1,399,942	1,148,997	
固定負債	591,520	512,938	
負債合計	1,991,463	1,661,936	
【純資産の部】			
株主資本	740,166	743,764	
資本金	331,122	331,122	
資本剰余金	295,694	295,694	
利益剰余金	113,349	116,946	
評価・換算差額等	△ 321	△ 1,907	
その他有価証券評価差額金	△ 321	△ 1,907	
少数株主持分	9,296	7,203	
純資産合計	749,142	749,060	
負債・純資産合計	2,740,605	2,410,996	

#### 連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	\ — \			
科目	<b>当期</b> (自2009年9月1日) 至2010年8月31日)	前期 (自2008年9月 1日) 至2009年8月31日)		
売上高	5,515,866	4,627,641		
売上原価	3,966,672	3,284,789		
売上総利益	1,549,193	1,342,852		
販売費及び一般管理費	1,477,627	1,283,616		
営業利益	71,566	59,235		
営業外収益	7,547	12,660		
営業外費用	35,452	31,690		
経常利益	43,662	40,205		
特別利益	5,122	34,133		
特別損失	3,418	108,682		
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	45,366	△ 34,343		
法人税、住民税及び事業税	46,354	30,787		
法人税等還付税額	△ 4,612	△ 4,252		
法人税等調整額	7,037	△ 50,904		
少数株主利益	183	367		
当期純損失 (△)	△ 3,597	△ 10,342		

#### 【連結貸借対照表コメント】

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末と比べ、329,608千円増加し、2,740,605千円となりました。これは主に売上債権の増加によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ、329,526千円増加し、1,991,463千円となりました。これは主に仕入債務の増加189,087千円及び関係会社での社債の新規発行200,000千円等の増加に対して、金融機関よりの借入債務が191,862千円減少したこと等によるものが主な原因であります。

純資産合計は、当期純損失3,597千円等を計上しましたが、少数 株主の持分負担の増加及び有価証券の評価・換算差額等が改善し たことにより、前連結会計年度末と比べ、81千円増加し、 749.142千円となりました。

#### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	<b>当期</b> (自2009年9月1日) 至2010年8月31日)	<b>前期</b> (自2008年9月1日) 至2009年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	17,300	203,456
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 122,078	162,542
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 26,227	△ 164,157
現金及び現金同等物の増減額(△減少額)	△ 131,006	201,842
現金及び現金同等物の期首残高	655,921	454,078
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	18,420	_
現金及び現金同等物の期末残高	543,335	655,921

#### 【連結キャッシュ・フロー計算書コメント】

- 当連結会計年度の営業活動の結果、 獲得した資金は、17,300千円(前連 結会計年度は203,456千円の獲得) となりました。これは主に売上債権 の増加等が仕入債務の増加や減価償 却費、未払法人税等の諸経費の額を 上回ったことによるものであります。
- 2 当連結会計年度の投資活動の結果、使用した資金は、122,078千円(前連結会計年度は162,542千円の獲得)となりました。これは主に有形・無形固定資産の取得による支出によるものであります。
- 3 当連結会計年度の財務活動の結果、使用した資金は、26,227千円(前連結会計年度は164,157千円の使用)となりました。これは主に既存の借入金の返済による支出が新たな借入や社債の発行による収入を上回ったことによるものであります。

#### **連結株主資本等変動計算書(要旨)**(自2009年9月1日 至2010年8月31日)

(単位:千円)

	株主資本			評価・換算差額等		41× <del>246 +44 -&gt;-</del>	<b>维次立</b>	
科目	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	少数株主 持分	純資産 合計
前期末残高	331,122	295,694	116,946	743,764	△ 1,907	△1,907	7,203	749,060
連結会計年度中の変動額								
当期純損失			△ 3,597	△ 3,597				△ 3,597
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					1,586	1,586	2,092	3,678
連結会計年度中の変動額合計	_	_	△ 3,597	△ 3,597	1,586	1,586	2,092	81
当期末残高	331,122	295,694	113,349	740,166	△ 321	△ 321	9,296	749,142

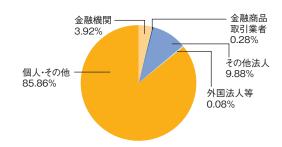
#### ●株式の状況(2010年8月31日現在)

発行可能株式総数 ————	30,000株
発行済株式の総数 ————	7,926株
株主数	746名

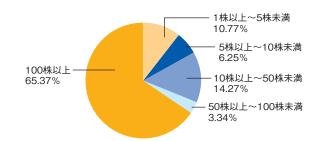
#### ●大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
前 俊守	2,540	32.04
サムシングホールディングス社員持株会	671	8.46
株式会社本陣	330	4.16
株式会社千葉銀行	300	3.78
前 耕蔵	210	2.64
前トミ	205	2.58
山川 勇	155	1.95
山川 純子	154	1.94
有限会社コモリ企画	150	1.89
平野 岳史	140	1.76

#### ●所有者別株式分布状況



#### ●所有株数別株式分布状況



#### 株主優待制度のご案内

当社株式への投資の魅力を高め、個人の皆様をはじめ、中長期的に当社株式を保有いただける株主様の 増加を図ることを目的としております。



※写真はおこめ券1kg見本となります。

- (1)対象株主/毎年12月31日の最終の株主名簿または実質株主名簿に記載または記録された株主様を対象とさせていただきます。
- (2)優待品/ご所有株式数に応じておこめ券を下記の基準により贈呈させていただきます。

#### 贈呈基進

- ①保有株式数②1株以上5株未満の株主様に「おこめ券(全国共通)」 2kg相当
- ②保有株式数◎5株以上の株主様に「おこめ券(全国共通)」5kg相当
- (3)贈呈時期/毎年3月(定時株主総会終了後)を予定しております。 (今回は、この株主通信等のご送付書類に同封しております。)

#### ●会社概要(2010年8月31日現在)

商 号 ● サムシングホールディングス株式会社

設 立 年 月 日 ● 2000年10月6日

本社所在地 ● 〒104-0033

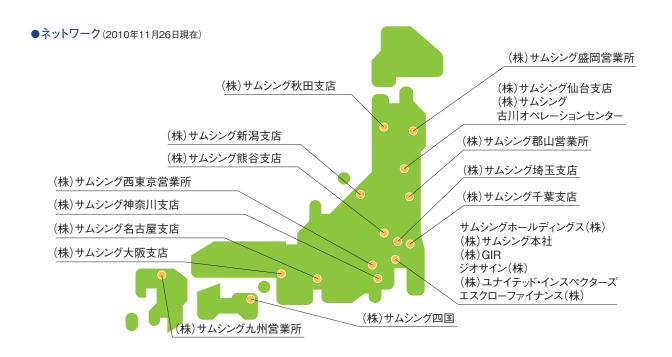
東京都中央区新川1-17-24 ロフテー中央ビル6F TEL 03-5566-5555(代表)

資 本 金 ● 3億3,112万2,500円

従業員数(連結) ● 270名

員 ● 代表取締役社長 前 俊 守 (2010年11月26日現在) 取 締 役 笠 原 篤 取 締 役 青 木 宏 取締役(※) 佐々木 降 常勤監査役(※) 岡田 憲治 監 杳 役 荒木 久忠 監 杳 役(※) 赤司 久雄

(※)社外取締役または社外監査役



株主メモ			
事業年度	1月1日から12月31日まで	同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 12月31日	公告 方法	電子公告掲載URL
	中間配当金 6月末日		http://www.sthd.co.jp/
定時株主総会	毎年3月		ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号			事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。
および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社		証券コード	1408
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	上場金融商品取引所	大阪証券取引所JASDAQ(グロース)
	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		
同 連 絡 先	〒137−8081		
	東京都江東区東砂七丁目10番11号		
	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		
	電話 0120-232-711(フリーダイヤル)		

#### IRサイトのご案内

事業紹介をはじめ、 最新IR情報は 当社ホームページにて ご確認いただけます。

● 当社ホームページ



http://www.sthd.co.jp/index.html

● IR情報



http://www.sthd.co.jp/ir/index.html

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設さ れている証券会社等にお問い合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- ご注意 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお 問い合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
  - 3.未受領の配当金のお支払い事務につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお取り扱いいたします。

### 株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイト にてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、 アンケートを実施いたします。 お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

http://www.e-kabunushi.com アクセスコード 1408

いいかぶ



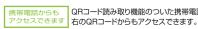
Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、 いいかぶ と4文字入れて検索してください。

空メールにより URL自動返信

kabu@wim.ipへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は





※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する[e-株主リサーチ]サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 http://www.a2media.co.jp) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ [e・株主リサーチ事務局」 TEL: 03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



